

# 図書館だより No. 8

平成 27 年 12 月 22 日発行

2週間の蔵書点検が無事終わり、今日から図書館は通常開館に戻ります。2週間、本を借りられず、うずうずしていた人、今日はたくさん本を借りていってください。図書館は冬の長期貸出に入っており、1人5冊を1月14日(木)まで借りておくことができます。図書委員おすすめ本の冊子の中からも読みたい本を見つけるのもよし、長い休みを活かして長編を楽しむのもよし、色々な本を借りていってください。3月に行われるハワイ語学研修に興味を持っている人にはハワイのガイドブックや語学の本もおすすめです。

さて、今年も残りわずかとなりました。2015年はみなさんにとってどんな1年でしたか。改めて振り返ると、あっという間だと感じていた1年の中にもたくさんの出来事があったことを思い出します。やろうと決めながら実行に移せていなかったことを思い出して、慌てる人もいるかもしれませんが、そんな反省を含め、今年を振り返り、新年の目標を考え始めてみましょう。



## ハワイの魅力がぎゅっしり\*

### B297-㉔『アロハ魂』 小林 聡美 || 著 幻冬舎

ハワイってこんなに楽しくて、魅力的な所！そんな筆者の気持ちがあちこちから伝わってくるエッセイです。12年ぶりに訪れたハワイ島。滞在先のヒロでは、パワフルなガイド クミコさんの案内の下、ボリューム満点の料理に圧倒されながらもスパイダーロールやカバ汁なるものに挑戦したり、絶品のフリフリチキンに出会ったり、と食を堪能。また、フラの名手から古典フラ カヒコの手ほどきを受け、ハワイの魂を体で感じ、ワイピオ溪谷ではワイルドな乗馬を体験。コナへ移動した後は、ハワイのマッサージ ロミロミで体を癒し、夜はハワイの伝統料理をいただきながら、フラなどショーを楽しむ。充実しっぱなしの旅の行程は読んでいるだけで、心を弾ませてくれます。お家にいながら、気分はもうハワイ！

## クリスマスまでの期間限定\*

### 913.6-ナ『シェアハウスかざみどり』 名取 佐和子 || 著 幻冬舎

家賃・光熱費0円、引っ越し費用も不動産屋が負担、クリスマスまでの期間限定シェアハウスおためしキャンペーン。何か裏がありそうなキャンペーンに集まった4人の男女。彼らの住まいとなるのは、シェアハウスかざみどり。八角形のおしゃれな洋館。赤い屋根の上には風見鶏。管理人の弓月(あだ名は吸血)は黒ずくめで無愛想、それでいて家のメンテナンスをせっせとこなしてくれる働き者。住人の心のメンテナンスも不機嫌な顔のままスマートにこなしてくれるのだが…、風見鶏の七不思議は本当なのか、キャンペーンの本当の狙いは何なのか。クリスマスにはその真相が明かされるのか。最後まで目が離せない。

# 図書館カレンダー

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

開館日  閉館日

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

## 2015年これを読まなきゃ終われない!!

今年も色々話題になる本がありましたね。みなさんの中で今年一番だった本は何でしたか。ここでは今年こんな本もオススメですという2冊を紹介します。

### 913.6-ハ『スクラップ・アンド・ビルド』 羽田 圭介 || 著 文藝春秋

又吉「火花」と同じく第153回芥川賞を受賞した羽田圭介さんの『スクラップ・アンド・ビルド』ニート生活を送る孫と老いていく祖父。同居生活の中で弱気な発言を繰り返す祖父に対し、孝行のつもりで、ある計画を思いつく。それはまったく身勝手に理解しがたい計画だけど、「在宅介護の現場で生まれうる感情のひとつなのかもしれない」そう考えると、孫の行動をさらに複雑な気持ちで読み進めてしまう。やがて、この計画によって、祖父ではなく、孫の生活に変化が生じる。筋トレに励み、就職活動や資格取得のための勉強に積極的になった孫はラストで祖父に対し、ふとした疑問が湧き起こる。この疑問が読者にも伝染し、読み終わった後も本の余韻が続く。

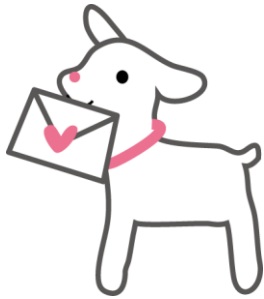
### 913.6-ヤ『ゲゲゲの女房 上・下』 山本むつみ || 脚本 NHK出版

2015年を表す漢字に選ばれたのは「安」。芸人ネタの“安心して下さい”もありますが、“安倍”政権下での“安全保障関連法案”の採択、テロや異常気象への“不安”から決まりました。この不安な気分の中で、過去の戦争を体験し、その悲惨さを伝えていた人たちが立て続けになくなりました。水木しげるさんと野坂昭如(のさか・あきゆき)さんです。野坂さんは、アニメ「火垂るの墓」の原作者です。『ゲゲゲの女房』では水木さんの過酷な仕事っぷりが描写されていますが、彼は妖怪マンガを描く一方で、本当の戦争のありさまを伝えるマンガも書きました。これからも戦争のない平安な時代であることを願いつつ、先人が何を伝えてくれているのかをぜひ読んで下さい。

## 📧 今月の知っておきたい〇〇の世界 📧

今月の知っておきたい〇〇の世界、第7回目の今回は年賀状のシーズンでもあることから“手紙の世界”を紹介します。

みなさん、今年も年賀状は書きましたか。最近、パソコンや携帯電話のメール、そしてラインなどの無料通話アプリが普及し、新年の挨拶も年賀状を使わない人が増えているように感じます。それだけでなく、日常生活でも紙とペンで手紙を書く機会というのも減ってきました。確かに気軽に送れ、やりとりができるメールやラインは便利ですが、手紙からはメールやラインからのメッセージよりもずっと相手の気持ちが伝わってくるなと思いませんか。手紙には書いた人のぬくもりがあり、便箋や切手を選ぶ楽しさもあります。今回紹介する本をきっかけに手紙っていいなと改めて感じてもらい、誰かに手紙を書いてみてほしいです。



### 手紙の書き方に自信をつける\*

816-ナ 『気持ちが伝わる手紙・はがきの書き方全集』 中川 越 || 著 PHP研究所s

手紙を書く機会というのは様々な場面であるものです。「こんな時はどう伝えたらいいのかな」「この言い方で失礼はないかな」など、書き始めて、ふと悩むこともあるかと思います。自分の気持ちを文章にするというのは、実際にやってみると難しいものですよね。でも、そんな時もこの本があれば大丈夫です。宛て名の書き方、書き始め方、書き終わり方など基本のことから、手紙を出すシチュエーションごとの例文とポイントが事細かく書かれています。また、同じシチュエーションでも送る相手によって言葉の使い方が変わってくるものですが、それに関しても友人宛の場合、目上の方への場合と分けて例文を載せてくれているので便利です。また自分の文字に自信がないという人も大丈夫。綺麗な文字の書き方も載っているので参考にしてみてください。

### ラブレターがたくさん\*

908.5-ド 『偉人たちのラブレター』 ウル斯拉・ドイル || 編 青山出版社

ナポレオン、モーツァルト、ダーウィン、オスカー・ワイルド、歴史上の名立たる偉人たちが愛する人へ送ったラブレター。「私の心と私自身のどちらもあなたに捧げ、それであなたが幸福になるよう、そして会えぬからと言ってあなたの気持ちが離れぬよう祈ろう」(ヘンリー8世)、「愛しい君よ、僕は君をずっとずっと限りなく愛しています。よく知れば知るほど、どんどん愛してしまうのです」(ジョン・キーツ)など、どの手紙にもロマンチックな言葉の数々が綴られています。そこからは、送り主の切なる想いが溢れ出しており、どれだけ相手を愛しているのかがよく伝わってきます。こうして本になり、たくさんの人に読まれてしまうとは想像もつかなかっただろう偉人たちの気持ちを考えると少しかわいそうになりますが、たくさんの愛の言葉は私たちの心もあたためてくれます。

### 自分を変える10通の手紙\*

913.6-キ 『手紙屋 蛍雪編』 喜多川 泰 || 著 ディスカバー・トゥエンティワン

高校2年生の和歌は、アルバイトの許可を父親から出してもらえず、また、そろそろ決めなくてはいい進路についても進学か、就職か、自分のしたいことが浮かばず、勉強に身が入らないまま過ごしていた。そんな時、兄から教えてもらったのが「手紙屋」という存在だった。手紙屋の仕事は、10通の手紙のやりとりで、人生で実現させたいことの手伝いをする。手紙屋との出会いで人生が変わったという兄と手紙屋からの手紙を見せてもらい、自分も手紙を書く決心をした和歌。「勉強とは何のための道具なのか」を考えることから始まった手紙屋とのやりとりを通じ、和歌は勉強に対してだけでなく、将来についても考え方を変えていく。何をやっても中途半端だった自分を見直し、前向きな気持ちで勉強と向き合えるヒントを手紙屋がみなさんにも教えてくれます。

## 📦 図書館司書の「今月はこの本を読みました」 📦

飛鳥井千砂さんの『タイニー・タイニー・ハッピー』(913.6-ア 角川書店)を読みました。

今年もふじみ野にららぽーとがオープンしましたが、最近はこちらに大型ショッピングセンターがありますね。何かと便利で私もよく利用していますが、この本の舞台も「タイニー・タイニー・ハッピー」、訳して「小さな小さな幸せ」という名前が付けられた大型ショッピングセンター(略してタニハピ)です。そこで働く人たちが主人公にした短編集となっていますが、主人公たちの間には繋がりがあり、長編と思って読んでも楽しめます。主人公たちの悩み多き恋愛模様は読んでみると、「どうなっちゃうんだろう」とハラハラしてしまいますが、みんなしっかりと答えを見つけ進んでいきます。働く大人の恋愛と思って読むと、高校生のみなさんも楽しんで読めるのかなと思います。一話一話、読み終わるごとに心に小さな幸せが宿るのを感じがするところが私は好きです。



【今井】

『セルマの行進』 リンダ・ブラックモン・ロフリー || 原作 (316- ロ 汐文社)を読みました。

簡単に読める本はないかとよく聞かれるので、手に取って見た児童書です。読んでから気づいたのですが、皆さんのなかには、来年6月から施行される公職選挙法等の一部を改正する法律によって、在校生のうちに選挙を経験する人がいます。なんてタイムリーな本をと、つい自画自賛してしまいました。日本で普通選挙が始まったのは1925年、女性にも選挙権が認められたのは20年後の1945年でした。アメリカで黒人の参政権を認める投票権法が可決したのは1965年です。それは南北戦争後の1865年に憲法修正第13条で奴隷制が廃止され、14条と15条で奴隷だった人にも市民権が保障されてから100年後、今からたった50年前のことです。当時14歳のセルマは投票権法を得るために、刑務所で拷問されたり、デモの最中に殴られて頭を縫うほどのケガを負ったりします。殺された人もいます。それでも、暮らしを良くするために、1票を投じることで変えられることがあると信じて、根気強く、愛情を持って、戦ったのです。【鈴木】